

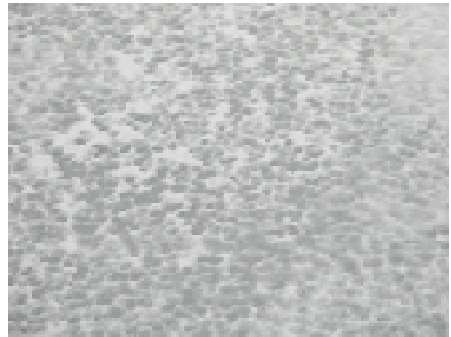
御所湖隨想

H23年3月 No.17

春の訪れ

2月下旬に暖かい日が続き、今年は春が一気に近づいたようです。それは全面結氷していた湖面に現れました。白かった湖面にかすかな濃淡ができ、次第にまだら模様のはっきりと見られるようになって来ました。春の訪れを告げる変化でした。

最初に湖岸の氷が融けだしました。やがて流入している川の氷が上流から融けてきました。ようやく川が姿を現し始めたのです。数日後には白い湖面の中央部にも水溜りがあるのに気づきました。さらに注意深く湖面を見渡したところ、一本の線が氷上に描かれていました。氷が割れています。銀盤に現れた春の兆しでしょうか。



3月になり、幾分寒さが戻りましたが、春は待ったなしのようです。雪の消えた斜面には、もう‘ばっけ’が顔を出していました。福寿草の花便りも報じられています。川岸の柳の芽もわずかですが色づいてきているようです。‘ばっけ’を摘んでいる人もいます。



空を見上げると、ハクチョウが鳴声を上げながら旋回しています。北帰行が近いのでしょうか。また、川岸の氷の上には多くのカモの姿も見られます。今年の冬は、全面が結氷していたので、久々のカモの飛来です。2月半ばに数羽のカモが湖の上を旋回して飛び去ったことがありましたが、鳥たちも湖面の状況を確認していたのか

もしれません。シーンとしていた湖面が少しばかりにぎやかになっています。3月20日には探鳥会が行われますので、参加してみませんか。その頃にはさらに多くの水鳥たちが見られることでしょう。まだ雪が舞うこともあります。御所湖の周辺で春の兆しを一つ、二つと見つけてくださいね！

